

bethel hospice letter autumn

ホスピスだより

tender loving care vol.20



「ふくろう」作) 中西經之・中西美結

松山ベテル病院ホスピス病棟

〒790-0833

松山市祝谷6丁目1229番地

TEL 089(925)5000

FAX 089(925)5599

ホームページ <http://www.bethel.or.jp/>



医療法人 聖愛会
松山ベテル病院

“日々是好日也”の生き方



ホスピスに入院されている患者さんとご家族にとって、誕生日や結婚記念日などは貴重で大切な記念日です。担当看護師が中心となって、スタッフ一同から手作りのメッセージカードをプレゼントしています。私はいつも“日々是好日也”を一言添えて記入しています。この言葉は唐末の雲門文偃（うんもんぶんえい）禅師の言葉です。善し悪しとはその人の評価であり、それに囚われて生きることは辛さを生じます。すべての出来事、状態、環境への拘りを捨て去り、毎日を素晴らしいものとし積極的に生きていこうという内容です。患者・家族と一緒に今ある生を応援することは、ホスピス精神そのものと気付き、私はメッセージとして記すようになりました。

いつものようにKさんの92歳を祝す誕生日カードに、私の想いを込めてメッセージを記しました。後で分かったのですが、Kさんは誕生日まで生きることを目標にしてホスピスで療養されていました。誕生日を無事迎えることができた満足の反面、更なる目標がないことに不安を感じられていました。私のメッセージを読み、自宅にあった日々是好日也を記した銅板のことを思い出し、私に見て欲しいという思いで自宅まで取りに行かれました。この言葉が取り持つ私との縁を喜び、今を大切にしようと生活されるようになりました。Kさんは、誕生日カードから派生した出会いの素晴らしさを皆様と分かち合いたいと希望され、銅板をデイルームに飾ることになりました。

（ホスピス病棟医長 坪田 信三）



スタッフ紹介

松山ベテル病院に入職して、早くも4ヶ月が経過しました。

あっという間に過ぎたこの4ヶ月、急性期病院で働いていた私にとっては、新しい驚きや感動、様々な体験の連続でした。

最初に驚き、感じたのは入院パンフレットやオリエンテーションでもよく目や耳にした看護理念である「その人らしさを大切にする」というケアに、それぞれのスタッフが真摯に取り組んでいることでした。

とてもシンプルな一言ですが、実際それをケアとして提供する事はなかなか難しい事が多く、看護師として恥ずかしながら、少し置き去りにされてしまいがちな言葉です。しかし、ここ緩和ケア病棟では、チャペルコンサートやお茶会はもちろん、8月にはビアガーデンまで催され、なんと入院患者様が好きな食べ物を食べ、歌い、お酒まで飲んでいるのです。その日の患者様やご家族は、皆笑顔で楽しそうに食べ、飲み、歌い、会話を楽しんでいます。時に、身も心もつらくなる療養の場で、あれほどの笑顔に出会えるとは思っていませんでした。たった一口のビール、大好きな食べ物、隣に座る人の笑顔がその人らしさを引き出していたのです。「その人らしさ。」という事を堅苦しく考えるのではなく、ほんの些細なこと、例えば好きな食べ物や飲み物を口にする、部屋から少し離れる事などで、大切にできることなのだと学んだ時期でした。

また、これまでに多くの患者様と関わり、そのご家族とも関わっていく中で、家族とは、患者様同様にとってもセンシティブな存在であるということ学びました。今までも看護師として多くの患者家族様との関係を築き、時には相談相手となっていたつもりではありましたが、そこにはどちらかという、家族とは患者様を共に見守り、支えてくれる人達という思いが多少なりともあったように思います。しかし、緩和ケア病棟で目にしたご家族の光景は、頭では分かっている愛する人を失う悲しみ、辛さを抱え、時に途方に暮れ、泣き、怒りみせる患者様自身の鏡の様な存在でした。

そのご家族様に対してもスタッフは患者様同様に心を配り、寄り添い、時間をかけ、想いや願いを聞き、最期の時を最良の時間として共に過ごせるよう援助していました。これもまた正直に、目からうろこが落ちる経験でした。

看護師としての経験は長い私ですが、学ぶべき事はまだまだ多くあり、未熟者であるという事を痛感しています。しかし同時に自分自身が看護師を目指していた頃に思い描いていた「患者に寄り添う看護」が実践できる喜びも感じています。

(看護師 小沼 香織)



身体と心の健康

(題字：浅海 伍郎)

苦しかった 2 年に亘る手術のあとを、私自身無気力で、なげやりになっていた。最近になって昔やっていた俳句や書道を少ししてみようという気になっていた。これは、娘から人間は何かを目的にしていけないと生きてゆかないのではないかとと言われて、ハッとしたことにはじまる。

現在の心境を少しでも表現出来ないかと、作品をつくって思った。作るにしたがって生きる意欲が少しわいてくるのを感じた。越智先生、チャブレンさん、看護師さんたちのはげましや、やさしさにあたたかさを感じて、少しでも作品をつくってみる意欲がでてきた。

これからもむつかしい人生を自分自身で励ましてみようと思っている。書も近々始めてみようかな。

一日の始まりは

ラジオ体操

毎日、NS も一緒に参加しています。

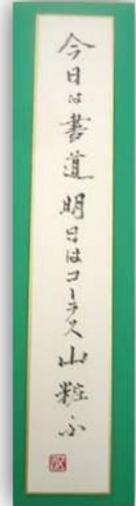


部屋ではパソコンで

お勉強！？

趣味の俳句展

夏が終わり、秋になりました



9月に行われた、リレーフォーライフの
一員として参加しました



申し送りが終わり、朝のご挨拶に伺うと、浅海さんと一緒に日課のラジオ体操が始まります。松山ベテル病院に勤務して半年。初めて担当させて頂いたのが浅海さんです。入院後、「ラジオ体操でもせないかな」とつぶやかれたのをきっかけに始めました。今では、私たちスタッフにとっても大切な日課となっています。

毎日、浅海さんらしく、パソコン・俳句(書道)など多趣味で充実した一日を過ごされています。ある時、浅海さんに「何のために生きるのか・・・」と問いかけられました。

一期一会という言葉がありますが、生きてると様々な人との出会いがあります。私は生きる意味とは、そのような出会いに意味があるから生きているような気がします。これからはベテル病院での一期一会を大切に「今日も一日良い日でした」と思っていただけできるよう、お手伝いさせていただきます。

(担当看護師：太田 亮子)

ボランティア募集しています！！

病室へのティーサービスにご奉仕くださる方、病棟のお花やベランダの園芸のお世話をしてくださる方、チャペルでのレクリエーションにご協力くださる方等々。
※「聖愛会ボランティア説明会」(無料)の受講が必要です。心身ともに健康な方で、定期的・継続的に活動いただける方の問い合わせをお待ちしております。

TEL : (089) 925-5000 FAX : (089) 925-5599 E-mail : volunteer@bethel.or.jp
(ボランティア委員会 担当：森)



ホスピス献金をお願いします！！

ホスピス献金は、ホスピス病棟や難病病棟の援助等、(医)聖愛会の諸活動の援助の為に(医)聖愛会に寄付として頂いております。

皆様方の暖かいご支援をお願い申し上げます。

★現金送金★

〒790-0833 松山市祝谷6丁目1229番地
松山ベテル後援会(松山ベテル病院内)

★郵便振替口座★

口座番号：01610-2-25364 名義：松山ベテル後援会

※「ホスピス献金」として献げる旨と「金額」をご記入ください。



編集後記

芸術の秋に、今号を発行することになりました。患者さんが造った萩焼に、ボランティアさんがアレンジを加えた物や、俳句や書道も紹介させて頂きました。皆さん素敵な趣味を持たれており、感銘を受けます。今後も随時ご紹介させて頂きたいと思っております。どうぞご期待ください。ご協力頂いた皆様に深く感謝いたします。

編集委員 坪田・藤田・戸田

2017年12月発行